

[制作記録]

プロジェクトレンダ

鈴木 康 雄

アトリエインカーブ

プロジェクトの発起人である今中博之氏は知的、また身体に障害のあるアーティストの自立を目指し、2003年に社会福祉法人アトリエインカーブを大阪で立ち上げました。ここでは障害をもつアーティストをクライアントと呼び、今中氏はじめ福祉を専門としない様々なクリエイターたちがその支援にあたっています。彼らの監修によるグッズの評価は高く、国内の美術館はじめ海外のファッションブランドなどでも取り扱われています。また今中氏は国内での評価や作品の流通がまだ主流になっていないアウトサイダーアートの現状を感じ、いち早くその本場であるニューヨークに作品を持ち込みました。その後本学で非常勤講師を務める寺尾氏、新木氏の作品を中心に展覧会が催されるなど高い評価を得ています。

インターンシップ

このプロジェクトは「障害を持つアーティストの自立支援」という他に類を見ないテーマを抱えた活動で、またこれまでこの美術系大学でも関わった事のない分野であると言えます。アトリエインカーブが構築した支援の仕組みや、アーティストの開拓にはこれまでの福祉業界にないタイプの人材が不可欠で、福祉の専門家では出来ない活動であるとも言えるでしょう。アートの創造と教育を旨とする本学が、他大学に先駆け2006年から地域連携センタープロジェクトの活動としてその一翼を担えた事は、国内の美術系大学にとっても大きな一歩ではないかと考えます。

過去に行われた講演会でも、大変な刺激を受けたという学生の発言も多く、このプロジェクトが本学で学ぶ学生にとって幅広い刺激を受けるチャンスを伴う事は明かです。また今中氏が取り組む活動や、

新しい福祉の仕組みやマネジメントのあり方から常識を超えた挑戦と実践を学ぶ希有なチャンスでもあります。学生は驚くべきフレキシビリティで過去のインターンシップを経験し、その中の一人(2007年視覚デザイン専攻卒)は現在アトリエインカーブのスタッフとして働いています。

これから

国内における障害者の就労環境は大変厳しく、袋張りなどの単純労働でさえあればいい方だと聞きます。そんな中でインカーブの活動は個々の障害者がその能力に見合った評価を得られる社会と環境を目指しています。本学での取り組みを通して学生が新たな視点を発見し、またアートと福祉が融合した新しいジャンルを牽引する人材がここから育つ事で、アートの持つ潜在力を社会に示していければと考えます。またそれを可能にするためには大学や自治体などの枠組みを超えた継続的、広域的な取り組みが望まれるところです。

美大との関わり

2005年 7月 今中博之氏による講演会
2006年 10月 寺尾勝広氏が非常勤として講義&ワークショップ
2006年 11月 金沢21世紀美術館にてシンポジウムを共同主催
2006年 11月 湯涌創作の森にて滞在制作&展示を共同主催
2007年 3月 電通ホールにて「エキシビジョン&トークセッション」
2007年 10月 新木友行氏が非常勤として講義&ワークショップ

参加メンバー

秋草 孝、横川 善正、角谷 修、寺井 剛敏、石田 陽介、山崎 剛、鈴木 康雄、中島 俊一郎

(すずき・やすお 視覚デザイン)

